

# 青年海外協力隊50周年 特集 第1弾!

## 「私たち、親子2代で協力隊!」

本誌では、今年1年、「協力隊の50年の歩み」をさまざまな角度から取り上げていきたいと思ひます。第1回は、父・息子ともに協力隊経験者という富山県の内山弘幸さん・和也さん親子にインタビューしてきました!



弘幸さん

協力隊に参加したきっかけは?

自動車整備士として働いていて、このままで良いのかという思いが強くなった。結婚して子どももいたけど、自分を試してみたいと思って応募しました。



和也さん

協力隊に参加したのはお父さんの影響?

家では、普段から内戦のニュースなど海外のいろんな話をする機会が多かったし、ホームステイも何度も受け入れていて、外国人の存在が身近にあった。ごく自然に協力隊を目指しました。協力隊に行くには資格があったほうが有利だと思ひ、保育士の資格を取った後、実務経験を積んでから応募しました。



弘幸さん

現地ではどんな生活を?



電話は、首都に1カ所だけある郵便局。電話を掛けるために何十人も列に並んでいた。なので、家族とのやり取りはもっぱら手紙。届くのには2週間かかった。

蛇口をひねっても水が出ないので井戸水を汲んで生活していた。



和也さん

日本にいる家族とはメールやskypeで連絡を取っていました。

停電の少ない地域だったし、水はもちろんのこと、お湯も時々できました。



弘幸さん

帰国後、ご自身が変わったなと思うことは?

国際関係のニュースを見ても、その背景がわかるようになったし、逆に日本のこともよくわかるようになった。



弘幸さん

息子さんについてはどうですか?

大人になったんじゃないか(笑) 視野が広がったし、さりげなくサポートしてくれるし、大人になったと思う。



和也さん

(\*\_\*)



息子の和也さんと、父の弘幸さん



1988~1990 ザンビア

自動車整備士として活動



おそろいのユニフォーム



ホームステイ先の子どもたちと



2010~2012 エチオピア

幼稚園の同僚に折り紙の指導



園児と一緒に

### JICAボランティアに参加される方へお二人からメッセージ!

途上国へのボランティアと聞くと「サバイバル」をイメージしがち。でも現地に行ったら何でもありません。だから臆せず挑戦してほしいです。一方で、今はインターネットで何でも調べられる時代です。現地の人の知識も増えているし、そういった意味では生半可な気持ちではだめだと思ひます。

#### 内山 和也さん(息子)

2010~2012年/エチオピア/幼児教育  
現地では、幼稚園で歌や手遊びを取り入れた授業を行った。現在は、障がい者の就労支援に携わっている。



50年前に第1回目のボランティアが派遣され、現地の方に受け入れてもらったからこそ今がある。2011年の東日本大震災の時に、名も知らないような小さな国からも支援があったことがその表れだと思う。とにかく現地の人と仲良くなること。よく言うのが、「100人いれば100通りあるのが協力隊」。自分なりの経験をしてみてください。

#### 内山 弘幸さん(父)

1988~1990年/ザンビア/自動車整備  
現在は、富山県青年海外協力隊を育てる会の事務局長として、県内のボランティアの活動支援に尽力している。

## JICA 中小企業海外展開支援セミナー 開催報告

### ミャンマー! 国づくりの課題と日本の中小企業のビジネス展開

1月28日、北陸の中小企業を対象に「ミャンマー! 国づくりの課題と日本の中小企業のビジネス展開」と題したセミナーを実施しました。セミナーでは、ミャンマーの経済、社会、投資概況の説明、JICA中小企業海外展開支援事業事例紹介(川端鐵工(株)川端康夫代表取締役社長)の他、青年研修「職業訓練教育コース」に参加している15名のミャンマー研修員を交えた交流会などを行いました。当日は55名の参加者がありました! また、石川県内のテレビ2局と新聞1社、富山県の新聞1社から取材を受け、今までに無いほど大盛況のセミナーとなりました!



自社の取り組みを説明する川端社長



ミャンマーの現状や課題について話す研修員



交流会では研修員からミャンマーの生の情報を聞くことができました!

### 海外ビジネス展開とグローバル人材育成セミナー in 魚津

2月12日、北陸の中小企業等を対象にセミナーを開催し、富山県内企業を中心に50名の参加がありました。JICAの中小企業海外展開支援事業を活用し、ミャンマー進出のための調査を行った川端鐵工(黒部市)の川端康夫社長、そして民間連携ボランティア制度を活用しグローバル人材育成を行っているサガミサービス(名古屋)の鷲津年春常務から取り組みが紹介されました。また富山県出身の青年海外協力隊経験者2名(池田氏、山本氏)からの活動報告や交流会を行いました。ASEANなどへの進出に関心が高まる中、セミナーを通じ、途上国の現状や投資環境、進出のメリットや留意点、人材育成に関し、講師の方々から貴重な情報をいただくことができました!



自社のグローバル人材育成について話す鷲津氏



途上国での活動を紹介する池田氏



熱心に話を聞く参加者

JICA北陸では、皆さまからのご相談を随時承っています。  
中小企業支援担当: 松柴  
ボランティア担当: 平田

## 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2014

今年度は、中学生の部37,669点(北陸3県793点)、高校生の部28,793点(北陸3県293点)の応募がありました。北陸3県では、中学生の部で大野美瑠璃さん(高岡市)が見事「国際協力特別賞」を受賞されました。おめでとうございます!

### 「相手のことを知ろう」

大野 美瑠璃さん



高岡市立高陵中学校1年(前在籍校:高岡市立戸出中学校)

まさか私の作文が賞をとれるとは思ってなかったので、学校の先生から受賞したことを伝えられた時は驚きました。そして、こんなに素晴らしい賞を頂けて、大変うれしく思います。ありがとうございます。今回この作文を書いたことで、より深く、社会問題などについて考えることができました。これからは、身近なことからでも国際協力に関わってきたいと思ひます。

### あなたの国際協力への思いをエッセイにまとめてみませんか?

毎年発表されるテーマに基づき、ニュースや学校などで学んだことを題材に「感じたこと・考えたこと」をエッセイにまとめてください。  
上位入賞者への副賞として、開発途上国での海外研修が準備されています。研修先では、JICAプロジェクトの訪問やホームステイ、現地の人たちと交流を行います。

募集時期: 6月中旬~9月中旬

### 北陸3県の受賞者・受賞校紹介

国際協力特別賞		
大野 美瑠璃	高岡市立高陵中学校1年	(富山県)
<small>(前在籍校:高岡市立戸出中学校)</small>		
独立行政法人国際協力機構 北陸支部長賞		
高島 佑衣	富山県立山室中学校3年	(富山県)
野本 千鈞	石川県立金沢錦丘中学校2年	(石川県)
後出 和希	坂井市立丸岡中学校2年	(福井県)
佳作		
齋藤 由芽	福井市立足羽中学校3年	(福井県)
学校賞		
大野市和泉中学校/福井市美山中学校/坂井市立丸岡中学校 (福井県)		

独立行政法人国際協力機構 北陸支部長賞		
野尻 桃香	富山県立高岡高等学校2年	(富山県)
砂土居 真央	北陸学院高等学校2年	(石川県)
道上 美瑠	福井県立藤島高等学校2年	(福井県)
青年海外協力隊富山県OB会 会長賞		
市井 香菜子	富山県立高岡高等学校2年	(富山県)
石川県青年海外協力隊OB会 会長賞		
岡田 菜子	金沢大学附属高等学校1年	(石川県)
青年海外協力隊福井県OB会 会長賞		
中村 仁美	福井県立高志高等学校1年	(福井県)
特別学校賞		
富山県立伏木高等学校 (富山県)		

※北陸3県の受賞者の作品は、「エッセイコンテスト2014優秀作品集」に収められています。作品集をご希望の方は、JICA北陸までお問合せください。